



朝永正三先生にとっての工部大学校と東京大学の合併と、その後

藤尾博重 (精密工学教室元教官)

まえがき

かなり前になるが、朝永正三先生の卒業證書との関連で、筆者らにはなじみのない工部大学校についてふれてきた。明治5年に学制が布かれて小学校・中学校が整備されようとしても、明治政府としては財政的な基盤が確立されていなかった。このように財政逼迫の中で高等教育については模索が続けられ、朝永先生が工部大学校に在籍していた頃になって高等教育の枠組みが成立する過程にあった。すなわち、高等教育については、工部大学校と東京大学工芸学部との合併により、帝国大学を発足させるというものであった。また、中等教育に関しては、東京大学の予科であった予備門に代わって、高等中学校の役割を課するものであった。とはいえ、これらの変革はかなり無理を強いられざるを得ないはずである。

本報では、そうした混乱期に朝永正三先生がどのような事態に直面せざるを得なかったのかについて記していく。本報では敬称を略することもあることを断っておく。また、資料およびその出所を明確にするために、それらについては旧体の文字を使っていることをあらかじめ承知されたい。また、筆者が資料より引用して作成した表などについては、内容に応じて旧字体、新字体を用いている。

(1) 工部大学校学生、東京大学との合併に反対して

東京大学が帝国大学に改組されるにあたって、明治18年12月東京大学の理学部内の工学関係部門（土木科、機械科、採鉱冶金科、応用化学科）は、理学部から分離した工芸学部に移され、工部大学校はこの工芸学部と合併することになり、工芸学部は明治19年3月帝国大学工科大学として発足した。帝国大学発足する以前からこの事態の推移について、工部大学校在學生も随時聞き及んできたであろう。この合併に危惧した工部大学校の在學生は、自分たちの将来がどのようなことになるか不安を抱くのは当然であろう。

当時、工部大学校の在學生の一人であった菅原恒覧は、文部大臣 森 禮宛ての建議書を起草するにあたって、まず、その経緯をまず説明している。それによれば、「明治十八年に官制の大改革あり始めて内閣総理大臣を首め各省に大臣置かれ

たりき。時に文部大臣となりしは森有禮氏にて氏は教育上には至大の抱負を有せりと称せられし人なりしが其の就職せらるるや程なく工部省所管の工部大學を廃止して文部省所管の東京大學工藝學科に併合せんとの風評あり」と記し、さらに、その文言に引き続いて、「為に校内に一大恐慌を惹き起せり、一日講堂に學生一同大集会を開き、反対運動を為すことに衆議一決し・・・」と。この記述は舊工部大學校史料附録 P.120 よりの引用である。

工部大学校学生であった朝永先生もその集会に集まったのではなかろうか？その集会への参加・不参加はともかくとして、学生にとって過去にもあった工部大学校への不満から生じた二つの事件を伝え聞くことがあったろうし、また、実際に直面することもあったであろう。まず、はじめに過去に生じたこれらの事件について以下に触れていく。

(2) これまでの事件

(2-1) 西館樓上の集合事件（舊工部大學校史料附録 P.31 岩田武夫：2期生 電信科）

西館樓上のストライキ（舊工部大學校史料附録 P.57 荒川巳次：2期生 鉱山科）

工部大学校と東京大学の合併が、工部大学校学生の間で話題になる頃より約10年前の明治9年12月に、「西館樓上の集合」なる事態が生じた。この事件は、天皇が東北へ出発するに際して、学生は休校して見送るものと考えていたところ、前日になって平日通りに授業をし、見送りを許さなかったこと、さらにその「数日前の海軍省の御雇教師何某の葬送の際、豫告もなく急に午後より休課とな」ることがあった。この首尾一貫せぬ大学校側の方針に反発して、当時学生寮が東西二つに分かれ、その西館に「多くの生徒は之に不平なりし折柄故・・・（筆者中略）・・・ 洋夷の専横一懲すべしと奮起し、其の夜學舎へ退きたる後檄を傳へて上は第四年生より下は第一年生に至る迄全部に通牒して明日の不登校、西館樓上集會の同盟を約束し、その夜は静寂にして就寝して平日に異ならず。故に生徒取締等察知するに由なからん。翌朝食事後續々西館樓上喫煙室に參集し、平日の如く教場に登るもの僅に二三名に過ぎず」として參集したと（旧工大史附 P.31 岩田武夫：2期生，電信科）。ここで、教場とは教室、或いは講義室のことであろう。

この事態に対して大学校側は、「教頭怒気を含んで上樓し、力争して狩出しを試みしも應ずるものなし、事の意外なるに驚き暫時にして出去れり」と。つまり、学生側は、外国人お雇い教師の葬儀には休校にしたのに、天皇を見送りについては平常通りに授業をしたことについて、「忠臣孝子の例を挙げ」て学生の気持ちを代表して起草し、これを上司に差し出した。これに対して工部大学校側は「數日を経て裁判官の如く審判官に林董氏を挙げ、陪席兼書記に天野魯氏を置き、生徒を一席に一名づつ呼出して取調を行」った。その結果にもとづいて大学校側は、6

名の学生に対して、4週間の外出禁止処置を取った。朝永先生の卒業証書には、朝永先生が合格した講義科目及びその担当者名が記載されており、そのうちのある講義科目の担当者は、この時に処分を受けた6名のうち1名である。このことは、別の機会に触れることもあろう。

また、荒川巳次（2期生 鉱山科）も同事件について「西樓上のストライキ」と題しての文を残している。この文章は、当時、工部大学校の学生であった荒川が、後日に思い出話として1931年（昭和6年）発行の舊工部大學校史料附録に寄せたものであり、当時、官憲による弾圧事件が頻繁に起こっていたためか、「ストライキ」という語は時代背景を映しての表現であったろう。

（2-2） 学位騒動

二つ目の事件は「学位騒動」といわれてものである。工部大学校の場合、成績評価が厳しく、「在学中の総合成績により三つのランクに分けられていた。すなわち、在学中の試験の配点を合わせて三二〇点満点とし、二〇〇点を超える者を第一等卒業とし、工学士の学位を授けることとした、次いで一〇〇点以上に〇〇未満の者を第2等及第とし、一〇〇点に満たない者については第三等修業として、卒業証書の代わりに修業証書が授与された」（東京大学百年史 通史一 P.664）。

この記述からも分かるように、工部大学校が存続した期間（M6～M18.12）において、学生の卒業時の成績は厳格に区分されていた。工部大学校の卒業・修業者の、年度ごとの成績分布を大蔵省発行の工部省沿革報告（明治22年発行）より引用して表1にまとめた。この結果によると、はじめての卒業者を出した明治12年における第1等及第者は、23名中8名のみ。また、第2等卒業者は14名、第3等修業者は1名であった。なお、この第三等修業者1名は土木科所属であって「英

表1 工部大学校における卒業生・修業者の成績分布（単位：名）
（明治22年 大蔵省発行 工部省沿革報告 p.975～978 より作成）

	卒業年月日	第一等及第	第二等及第	第三等修業
第一回	M12.11.8	8	14	1
第二回	M13.5.15	7	32	1
第三回	M14.5.14	12	25	1
第四回	M15.5.11	13	21	1
第五回	M16.5.15	12	23	
第六回	M17.5.14	5	16	1
第七回	M18.4.30	4	14	
計		61	145	5

文一覧ではわざわざ病気のため卒業試験が十分にうけられなかった旨の理由が付記されていた」と（東京大学百年史 通史一 p.665）。

表1には、明治18年4月までの卒業者数を纏めて最下段に示した。これによると、卒業・修業者はトータルで211名でありながら、第一等に相当すると評価された学生61名のみであり、この学生には工学士としての学位があたえられた。しかし、この数は全学生の三分の一にも満たず、成績評価が厳しかったことがうかがわれる。逆に言えば卒業生全体の三分の二にも及ぶ第二等以下は卒業時に学士の学位は与えられなかった。しかも、工部大学校を第一等及第として卒業しても、卒業後の月給は30円。これに対して、東京大学の卒業者にはすべて学士の学位が与えられ、しかも給与は50円であったという。このことは前の報告でも記した。なお、卒業時の学士としての学位取得条件が緩和された（東大百年史 通史一 P.695）が、そのことについては、この学位騒動の顛末を記した後に触れることにする。

こういった理由から、明治15年の春（旧工部大史付 P.115）に工部大学校内に処遇改善の運動がおこり、「學位に関する爭議」と発展した。学生であった中原淳藏（機械科 第4期生）も「工部大學校在學中の記憶」と題した文を書き残している。それによれば、「卒業の成績は三段に區別せられ、一等二等三等と稱へ、一等には卒業の際工學士（稱號にあらず）の學位を授け、永く其の榮譽を保證すと卒業證書に記してある。而して初給三十圓、二等は卒業後二三年の経験を経て工學士の位を授けられ、初給二十五圓、三等は初給に二十圓と定められて居た。此の階級的制度は維新當時の平等思想に反して居るといふので、學生間に不満の声が喧しく、遂に一等卒業生のものが主となりて、明治15年の春、其の撤廢運動を起す為、西館樓上に集合を催し、委員を選んで数日にわたり學校長大鳥圭介氏に陳情して其の撤廢を迫まった」と（旧工部大史附 P.115）。

また、これも学生であった吉本龜三郎（土木科 第6期生）も「學位に関する爭議」と題して文を寄せている。それによれば、「兎に角筋道の通った嘆願であるから、誰も彼も賛成で裏切者などは一人もなかったやうに思ふ」（旧工部大史附 P.87）と。これに対して大学校当局は、「本校幹部も之れに大分頭を悩ませた様子であった。時の最高幹部は無論工部省にあって、山尾、大鳥、林などの間でも餘程心配され、可なり軟論も出たやうであるが、遂に本校の主義方針を曲ぐることはならぬと言ふ評定ありて、卒かに各學生の保證人を呼出して説諭を促したる挙句、學生一同に向ひては『仰々卒業式は本校の大典にして之を非議する者は』云々の嚴かなる戒告書を送り、恭順者は謝罪的請書を差し出すやうに令達があ」って、抑え込まれたと思ひ出話として記している（旧工部大史附 P.86 -

87)．ここで、山尾，大鳥，林はいつでも工部大学校に係った役人を指す．

さらに、前述の吉本亀三郎が記した文章に引き続き次のような記述がある．
「丁度其の時は明治十五年の四五月の交であって、余は五年生となって初めて関西にエクスカージョンに出た、其の出先へ右の嚴命がきたのである。上級生も無論卒業式を待っておるが、或いは地方へ出張して争議団の幹部は失せて急に対抗策協議などの機会もなく、団体の氣勢は揚らず、吾々にも出先から謝り證文を發送して何時とはなし鳧いたのである、蓋し本校当局者は好時機を覘ったのである。」（東大百年史 通史一 P.695）

(2-3) これらの事件の結末

これら二つの事件は、いずれも学生側の敗北といえるものであろう．しかし、これらのうち、後者（2-2）の事件後、「工学士授与条件の緩和は実現しなかったものの、恐らくは、このような学生側の要求に対応する処置として、明治15年度（一八八二）から『学士特別試験』なるものが設けられ、第二等卒業の者にも、卒業後二年たって所定の条件を満たす場合、工学士号を獲得し得る道が開かれた。」と（東大百年史 通史一 P.695）．ここで「所定の条件を満たす場合」の内容は、工部大学校學課並諸規則（明治16・17年）に示されている．

工部大学校当局のこの収拾策は、学生の要求を一定程度受け入れたものであると評価しても差支えなかろう．しかし、この工部大学校學課並諸規則に則って「手続をとって工学士を目指す者はなく、明治二十年になって、工部大学校の第二等卒業の者以上を、帝国大学工科大学卒業生と同等にみなすという措置がとられることになり、彼らに改めて帝国大学卒であることを示す称号として工学士が付与された」と（東大百年史 通史一 P.695）．

ここで見られるように工部大学校当時、学士は学位であったものが、この時点で単なる称号に代わったことに注目すべきであり、これ以降、この「学士の称号」制度は長らく続き定着していった．ところが、1991年に学校教育法が改正され、大学を卒業した者に対し学士の学位を授与されるようになったという（<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%AD%A6%E4%BD%8D>）．

これらの事件のうち、「西館樓上の集合」事件は、朝永先生の工部大学校入学以前のことであり、朝永先生はそれに遭遇する機会はなく、朝永先生としては預かり知らぬことであったろうが、当然、学生の間では衆知のこととして伝え聞いていたであろう．しかし、「学位に関する争議」は、朝永先生が工部大学校に入学する以前から燦り続いていたようで、入学したばかりの朝永先生にとって思い

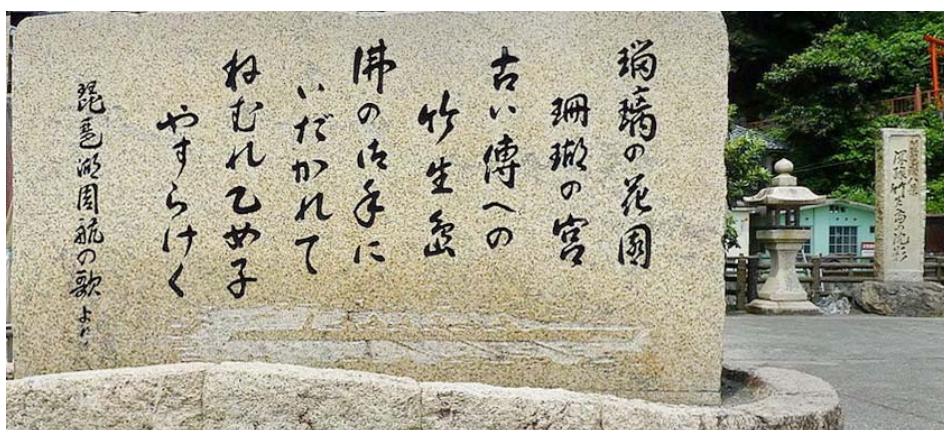
もかけない事態に直面せざるを得ないことになったことであろう。

朝永先生が入学した明治15年4月28日には、まだ事件は尾を引いており、吉本亀三郎の記述によれば、学校当局はまずそれまでの在校生と朝永先生等の新入生とを分断する時期を狙い、実施科になったばかりの第5学年生が地方などの現場に赴いたのを見計らって、学生たちに謝罪の一札を入れさせる処置を大学校当局が取ったのであろう。このような顛末を朝永先生も見聞したことであろうし、後の東京大学・工部大学校の合併に際して、朝永先生等の在校生の気持ち・動きにも大いに影響を及ぼしたことは間違いなかろう。

(つづく)



学生、心のふるさと奥琵琶湖、竹生島



アイスランド (Iceland)

檜原 勇多賀 (S37卒)

「日本の方ではありませんか？」

顔を上げると、いつの間にか目の前に、背は低いが、がっしりした体格の初老の紳士と、その夫人と娘と思われる二人の女性が立っていた。

「ええ、そうです」

「やはり、そうでしたか。わたくしは、サルナスです」

差し出された名刺には、＜アイスランド共和国 国会議員 R. サルナス＞と印刷されていた。

「サルナスさんですか。お名前は、よく存じております」

「日本の方は、すぐ飛んできて下さるので、大変感謝しています」

場所は、アイスランド共和国の首都レイキャビクの空港待ち合い室。クラフラ地熱発電所の定期検査で異常が発見されたため、客先要請により、日本から飛んできたところである。サルナス氏は、その地熱発電所を実現させた実力者だ。



時は、1979年6月、日本を発って、途中ブリュッセルとコペンハーゲンで乗り換えて、30時間かかってアイスランドのケフラビック国際空港にたどり着き、国内線に乗り換えるため、レイキャビク空港へ移動したところであった。

「コーヒーでも飲みませんか？」

サルナス氏に案内されて、コーヒーショップに行き、出発までの時間を過ごす。サルナス氏は、家族と一緒に一週間をイギリスで過ごし、アクレイリに帰るところであった。

出発時間が来て、サルナス一家と一緒にアクレイリ行きの国内線に乗り込む。機種はフレンドシップで、かなり古い。座席に着いて、ひょいと前の座席の背を見

て、一瞬、我が目を疑った。なんと、日本語で、

「シートベルトをお締めください」

「救命衣は座席の下にあります」

と書いてあるではないか。このフレンドシップは、その昔、日本国内で活躍した後、アイスランドに買い取られて、なお現役で活躍しているのだ。

飛び立って間もなくすると、睡魔が襲ってきて眠り込んだらしい。目を覚ましたときは、機は高度を下げて、アクレイリ空港に着陸する態勢に入っていた。

「お疲れでしょう。よく休んでおられました」

隣の座席のサルナス氏が気付いて、話し掛けてきた。

機は、フィヨルド（峡湾）の狭い谷間に向かって、どんどん高度を下げて行く。奥深い入り江になったフィヨルドの岸では、黒々とした玄武岩の絶壁が海にのぞみ、氷河に水源を養われる小川は、真っ白な滝となってそのまま海に注いでいる。フィヨルドの奥に、しばしば小さな平地が発達し、安全な入り江の港を通じて外界と連絡する。人々が、ささやかな集落を作って生活を営んでいる。アクレイリは、そのような集落の一つである。

空港には、エリアッソン氏が出迎えていた。エリアッソン氏は、サルナス氏と対照的で、長身でインテリタイプである。少々疲れていたもので、そのまま、エリアッソン氏の車でホテルまで送ってもらう。ホテルは、上等ではないが泊まり客が少なく、静かなのが何よりであった。シャワーを浴びてベッドに入ると、朝まで死んだように眠った。

窓から射し込む淡い明かりに、爽やかな朝を迎えた。階下の食堂に降りて行く。食堂は、床が板敷きで、歩くとギシギシきしみ、天井は恐ろしく高く、まるで小学校の教室の感じだ。他に客は無く、食堂に居るのは、私と若い背のすらっとした真面目そうなウェイターと二人きりである。

「おはようございます」

「コーヒーをお飲みになりますか？」

「ええ、それからトマトジュースも下さい」

この食堂の朝食にはメニューは無い。その代わりに、テーブル上のバスケットの中に、いろいろな種類のパンやソーセージが置かれていて、その中から、好きなものを好きなだけ食べられる。注文できるのは、飲み物だけである。それでも、日頃から朝食の量が少ない私にとっては、十分に楽しい食事であった。

約束の8時30分に、エリアッソン氏が迎えに来てくれた。氏の運転する車でクラフラ地熱発電所に向かう。

「一週間前に、気温が急に20度も上がって、そのため雪が一斉に融け出してしまいました。その結果、道路が数カ所寸断され、昨日まで通行不能となっていました」

気温が20度上がったとは言え、長崎の冬と変わらないくらい寒く、山はまだ真っ白く雪で覆われている。途中、何箇所か、道路脇の崖の上から、雪解け水が滝となって落ちてきて、道路の上を横切って流れていた。

フト上を見ると、山の急斜面を真っ黒な動物がよじ登っている。

「あれは羊です。野生では無く、飼っているのですが、草が少ないため、柵を作らず、自分で勝手に餌を求めて動けるようにしているのです」

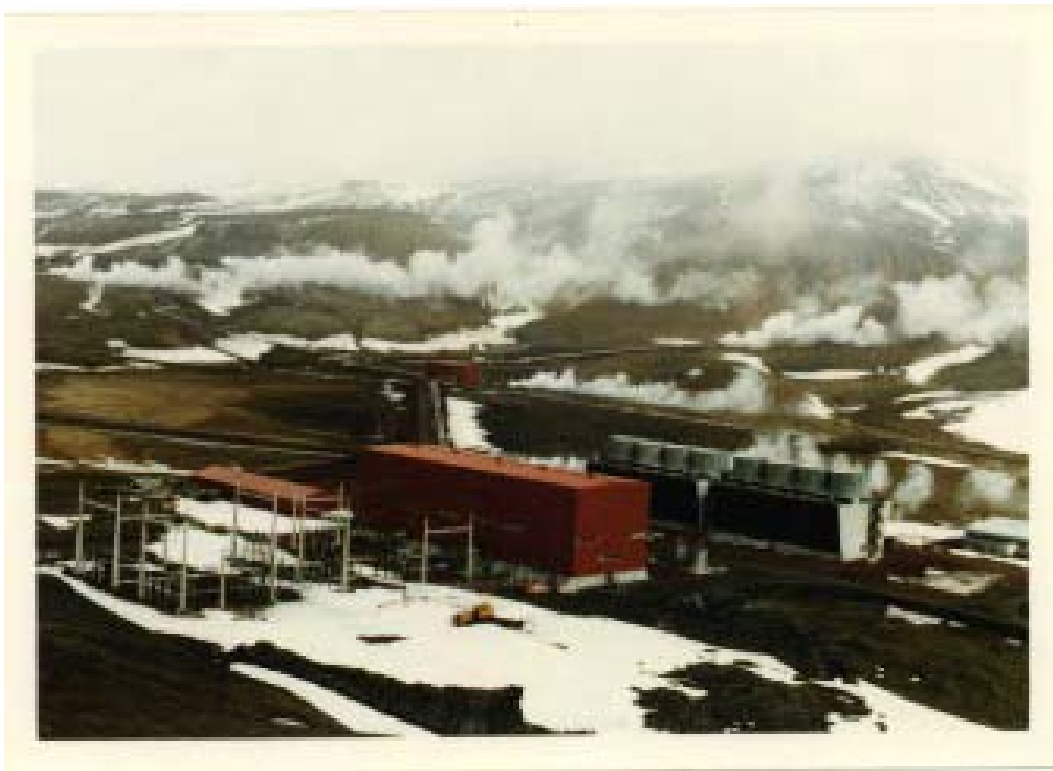
あとで判ったことだが、真っ白で可愛らしいニュージーランドの羊に比べ、アイスランドの羊は、泥に汚れて真っ黒でたくましく、肉は硬く野生の味がする。

道は谷間を縫うように川に沿って蛇行し、途中、フサビックへの分かれ道を過ぎて、1時間半でミー湖に着いた。ここは、アクレイリの東約50キロメートルに位置する静かな湖である。湖畔の町レイキャリドから左折して、クラフラへと道は登って行く。

アイスランドは、大西洋中央海嶺の真上に位置し、火山活動によって5000万年前に生まれた島である。いまなお火山活動が活発で、最近でも、スルツエー島と言う新しい島が出来たり、ヘイマイ島で火山が爆発し、噴き出した溶岩が、民家を襲ったりしている。また、アイスランドのど真ん中を南北に割れ目が走っており、その割れ目が1年に1センチずつ開いている。クラフラ地熱発電所も、この割れ目の上に位置し、マグマが地表近くまで来ている。

ところが、このマグマがあまりにも地表近くまで来ているために、厄介なことが起こる。夜中に、突然警報のベルに叩き起こされて、慌ててジープに飛び乗って麓の町まで避難するのはしょっちゅうで、信じられないことだが、ある日、発電所の建物が、一日のうちに、3メートル持ち上げられて、1メートル下がった。さいわい、発電所全体が一様に上下したため、被害は殆ど無かったが、恐ろしいことである。

宿舎は、発電所の中に建てられたプレハブで、一応、食堂も付いている。"一応"と言ったのは、その食事が、およそ食べられたものではないからだ。塩気が全く



無い。減塩食などと言うものではない。その日のおかずは、白身の魚の"ボイル"（煮つけではない）であった。私の顔を見ると、カウンターの向こう側のコックが、奥の棚から、何やら大きな瓶を持ってきてカウンターの上に置いた。なんと、キッコーマン醤油の一升瓶だった。気の利いた指導員が日本から持ってきて、置いて帰ったものだろう。その指導員に感謝しながら、ボイルされた白身の魚に、醤油をたっぷりふりかけて食べることができた。

ある日、夕食にスープが付いた。色は茶色をしていたが、ほかほかと湯気を立てて美味しそうだった。スープ皿になみなみと注いでもらって、早速飲んでみた。驚いたことに、それは、砂糖の十分効いたココアのスープであった。アイスランド人が、塩を殆ど取らないということは、ここに来るまで知らなかったが、アイスランドが世界有数の長寿国である秘訣は、この塩を取らない食事にあったのだ。

時計は、確かに午前2時を指している。それなのに、窓の外はもう薄明るい。時計が狂ったか、頭がおかしくなったのだと思った。そのどちらでもなかった。アイスランドは、北緯65度に位置しているため、6月は白夜となるのだ。たまたま午前2時に目が覚めて、夜明けと間違えたのだ。真夜中でも、キャッチボールが出来くらい明るく、午前2時過ぎからやっと暗くなるが、それもほんの一時で、4時頃には、また明るくなり始める。

6月というのに、吹雪に見舞われた。冬のアイスランドはまさに氷の島で、外に出るとき帽子を忘れると、脳味噌が凍って、突然倒れる。夕食後、管理人の部屋

に行って、6歳くらいの男の子を相手に遊ぶ。遊ぶと言っても、言葉は全く通じないのだが、トランプの手品をして見せると、キャッキヤと笑って喜ぶ。子供に国境は無い。

アイスランド人は、アイスランド語を使う。アイスランド語は、印欧語のうち、ゲルマン語派の北ゲルマン語群に属する言語で、アイスランドは地理的に孤立しているため、他の北ゲルマン諸語のように大陸の言語から影響を受けることが少なく、他のゲルマン諸語に比べて現代まで古い形を保っている点が少なくない。単語は全て第一音節にアクセントを持ち、現代英語では消失したr、l、nの前のhを保っていることが目立つ。また、ゲルマン語派のうちでアイスランド語と英語のみが、thの音を保存している。このように、アイスランド語は非常に馴染みにくい言語であり、話す言葉は異様に聞こえる。

一週間の滞在の後、発電所に別れを告げて、帰国の途についた。麓の町まで、共産党員だという発電所長が送ってくれた。

「ここからバスに乗ってください。アクレイリの空港まで行きます」

「どうもありがとうございました。エリアッソンさんにくれぐれもよろしくお伝えください」

大型のバスに2時間揺られて、アクレイリ空港に着いたのは、出発の2時間も前であった。チェックインを済ませて、小さな空港ロビーのベンチに腰掛けて時間を過ごしていたが、ふと、コーヒーが飲みたくなり、ロビー内のコーヒースタンドに行き、コーヒーを飲んだ。暫くして、席に戻ると、ベンチの上に置いておいたコートが見当たらない。すぐ周りを見渡したが、それらしきコートを持っている人はいない。仕方ないので、チェックインカウンターに行き、今起きたことを説明した。

「どうかされたのですか？」

振り向くと、そこにエリアッソン氏が立っていた。

「コートが無くなったのです」

「コートが？」

「そうです」

「そんなことは考えられない」

「ベンチの上に置いてコーヒーを飲みに行ったのです。10分後に戻ってみると・・・そうだ！たしか、となりに、二人の紳士が座っていました」

「それで？」

「戻ってきたときには、二人はもういませんでした」

「その二人が間違えて持っていったのだ」

「盗まれたのでしょうか？」

「アイスランドでは、物が盗まれることはありません。きっと、出てきます。その二人から連絡があったら教えてくれるよう、頼っておきましょう」

「ところで、食事はまだでしょう？」

「ええ」

「ちょうどよかった。私の家で食事をしながら待ちましょう」

エリアッソン氏の住まいは、空港を見下ろす高台の高級住宅地にあった。家族は、夫人と10歳くらいの娘の3人で、氏がイギリスの大学を出て、アイスランド大学で教鞭をとっていただけに、インテリジェンスを感じさせる家族である。家に着いて間もなくすると、電話が鳴って、エリアッソン氏が電話に出た。

「コートは見つかったそうです。やはり、その二人が間違っって持って行き、気が付いて、空港に連絡して来たそうです。でも、二人は、ここからかなり離れた町まで帰ってしまっているのです、今日中に届けるのは無理と言っています。残念ですが、私が受け取って日本にお送りします」

「お手数をお掛けしますが、よろしくお願いします」

食事がまだ終わらぬうちに、出発の時間が近づいてきた。

「時間はまだ大丈夫でしょうか？」

「大丈夫です。ここから空港がよく見えます。レイキャビクからの便が着いてからここを出ても十分間に合います。心配でしたら、空港に時間が来たら教えてくれるよう頼んでおきましょう」

氏の言った通り、レイキャビクからの便が着いて暫くして、空港から連絡があった。再び氏の運転する車で空港まで送ってもらい、レイキャビク行きの国内線に乗る。

レイキャビクで一泊し、翌日、いよいよアイスランドにお別れをする。

今回は、いろいろなことを経験した旅であった。見るもの、聞くこと、すべてが初めての世界であった。物資は無いが、エネルギーに満ちているアイスランド。今日もまだ、その躍動を続けていることだろう。

(第一話 おわり)

1965 年卒同窓会（4040 会）例会

毎年開催しているこの会、今年は平成 28 年 5 月 26 日宝塚ホテルで行いました。今年は阪神間在住の幹事団が相談、一度は観ておこうと実施した宝塚歌劇鑑賞に約半数の参加を得、手塚治虫館散策などを経て合流した全体会では、歌劇鑑賞の印象も含め、近況報告に花が咲きました。年一度の近況嘯には野次も飛び交い、おしまいは恒例の琵琶湖周航の歌を元気いっぱい歌い切りました。（龍野記）



2016. 5. 26 京大 4040 会同窓会 / 宝塚ホテル

—— 京機短信への寄稿、宜しくお願い申し上げます ——

また、原稿が切れてきました。京機短信存続が問題になるレベルです。

是非とも投稿、お願い致します。 気楽に ！！

但し、原稿のタイトルの次に、**著者名と卒業年次を必ず記入**してください。その記入のない投稿がかなりあり、編集者の仕事を増やしていますので、何とぞご配慮の程、お願い申し上げます。

【要領】

宛先は京機会の e-mail: jimukyoku@keikikai.jp です。

原稿は、割付をすることなく、適当に書いてください。割付等、掲載用の後処理は編集者が勝手に行います。宜しくお願い致します。

今年4月29日オープンの「京都鉄道博物館」において、11月6日（日）に京機会総会特別企画を開催します。11月5日（土）開催の京機会総会（次頁参照）と併せてお申し込みください。多数のご参加をお待ちしております。

京都あそび （特別企画）＜京都鉄道博物館見学会＞のご案内

京機会総会翌日の11月6日（日）に、「鉄道博物館見学会」を開催します。

- 午前中にガイドツアー形式で館内をご案内します。その後、自由解散し各自お時間までお楽しみ下さい。

1. 日 時: 平成28年11月6日（日）
2. 場 所: 京都鉄道博物館 京都市下京区観喜寺町 <<http://www.kyotorailwaymuseum.jp/>>
3. 集合場所: 京都鉄道博物館入口 10:00集合
4. 参加費: 大人 1000円 / 大学高校生 800円^(注) / 小中学生 400円^(注) / 幼児 無料 ^(注) 学生証を携帯下さい。
5. お申込み: 京機会総会WEB受付にてお申し込みください。
6. 幹 事: 関西支部 京機カフェ: 小林 聡(S58) 坂口 保彦(S54) 北條 正樹(S54)

また、同博物館では、京大鉄道研究会写真展「鉄道のある風景」が10月8日～18日に開催されます。＜写真展は名古屋(11/22～28)、東京(12/1～7)でも開催です。＞

第12回 京都大学鉄道研究会写真展（2016年）

鉄道のある情景

－くらしの中の鉄道を再発見する写真旅行－



「一瞬の出会い」

湖西線 近江中庄-マキノ 2015.12.11 石角 強

鉄道情景37点(名古屋展は35点、東京展は25点)を展示します

京都会場 京都鉄道博物館本館3階ギャラリー 京都市下京区観喜寺町

期 間 10月8日(土)～18日(火) (10月12日(水)休館)

時 間 10 時～17 時30分 (入館料(大人1200円、大学・高校生1000円ほか)が必要)

名古屋会場 HCLフォトギャラリー名古屋 名古屋市中区錦1-11-20 大永ビルディング2 階

期 間 11月22日(火)～28日(火)、(11月23日(水・祝)、11月27日(日)休館)

時 間 9 時～18 時 (11月26日は17時まで、11月28日は13時まで) 入場無料

東京会場 HCLフォトギャラリー新宿御苑 東京都新宿区新宿1-6-5

期 間 12月1日(木)～7日(水) (12月4 日(日)休館)

時 間 10 時～19 時 (12月3日(土)は17 時、12月7日(水)は15 時まで) 入場無料

企画・主催 京都大学鉄道研究会写真展実行委員会

平成29年度 京機会総会開催のご案内

本大会を下記により開催いたします。出席下さいますようご案内申し上げます。
本年度も京大ホームカミングデーと同日開催です。ご家族の参加も歓迎いたします。

日 時：平成28年11月5日（土） 15：00～19：30

会 場：＜講演会・総会＞

京都大学吉田キャンパス物理系校舎 3F 313室

＜懇親会＞ 百周年時計台記念館 2F「国際交流ホールⅡ・Ⅲ」

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 電話：075-753-2285

行 事：＜大会受付＞ 14：30～ 物理系校舎 3F 313室 前

1. 京機会総会 15：00～16：15

2. 技術講演会 16：30～17：30

「消えるロボットを創りたい

～ 生物型ロボットからレスキューロボットまで ～」

松野 文俊氏 ＜京都大学工学研究科 機械理工学専攻 教授＞

消えるロボットとはなんでしょうか？これは講演の中でご説明します。
さて、人間を含めた生物は素晴らしい運動知能を持っています。これを理解し生物を超えるロボットを「守破離」の考え方で研究しています。
これまで創ってきたロボットたちを紹介します。また、阪神淡路大震災以降ロボットを災害対応に役立たせるためにレスキューロボットを開発してきました。私の国際救助隊「サンダーバード」の夢についてお話しします。



● 「ロボット工学・メカトロニクス関連」に興味をお持ちのお子様方にも拝聴いただける内容にてご講演いただきます。

3. 記念写真撮影 17：30～17：35

4. 懇親会 17：45～19：30

今回は、学年毎にお集まりいただけるテーブル席をご用意させていただく予定です。皆様の学年同窓会としても、懇親会を大いにご利用いただければと思います。
また、大好評の世界無形文化遺産「和食」の八寸料理を今年もご用意いたします。どうぞお楽しみに。



会 費（懇親会費）：一般会員 5,000円 学生会員 1,000円
同伴者（高校生以上） 1,000円 （中学生以下） 無料

● ご家族の参加も歓迎いたします。ご家族参加の場合は、大会参加申込時にその旨ご回答下さい。

● 自由な服装でお越しください。

● 翌日（11月6日（土））は、関西支部：京機カフェとの共催による

総会特別企画 「京都あそ歩＜京都鉄道博物館見学会＞」を開催いたします。

詳細はメール案内ならびに京機会HP (<http://www.keikikai.jp/honbu/gyouji/gyouji.html>) をご確認ください。10月21日（金）までに、参加申込をお願いします



● 第11回 京都大学ホームカミングデー

総会当日は、京都大学ホームカミングデーも開催されます。本年度は「華」がテーマです。講演会や昼食懇親会、見学企画【総合博物館、附属図書館、尊攘堂、清風荘（清風荘見学のみの当日朝9時整理券配布）】や京大生のキャリアを考える「卒業生×在学生交流イベント」などとあわせお楽しみ下さい。詳細は、次頁をご確認ください。

講演会 ※一般申込可【定員:500名】

場所:百周年時計台記念館 百周年記念ホール

事前
申込制

● 開会 10:00~10:05

挨拶 京都大学総長(京都大学同窓会会長)
山極 壽一

● 舞 10:10~10:25

芸妓(先斗町:市さよ) 演目「秋の色種」

● 講演 10:30~11:45

華道家元池坊 次期家元
池坊 専好
「いのちをいかすいけばなの美と心」

いけばなの
実演



京料理を味わう【定員:200名】 ※3,700円事前振込

場所:百周年時計台記念館 国際交流ホール

事前
申込制

● 会食 12:00~13:00

「京都吉兆」の特別弁当
京都大学奇術研究会による
マジックショー



※写真はイメージです。
内容は変更する可能性があります。

● クスノキ屋台村 ※一般来場可。雨天時は規模縮小

クスノキを中心に飲食店等のブースを展開

● 時間:11:00~17:00

● 場所:百周年時計台記念館前

● 卒業生×在学生 交流イベント

京大生のキャリアについて考えるイベント

● 時間:13:30~17:00

● 場所:国際科学イノベーション棟5階(シンポジウムホール)

● 講演:ライフネット生命保険(株)代表取締役会長 出口 治明 他

※ホームページより事前申込

● 音楽会 ※一般来場可

京都大学交響楽団の演奏

● 時間:13:15~13:55

● 場所:百周年時計台記念館
百周年記念ホール



● 清風荘 公開

2012年 重要文化財に指定

当日午前9時から時計台にて先着順で整理券配布

・第1回:13時~14時
・第2回:14時~15時
・第3回:15時~16時

各回
40名限定



※同窓生とその同作者のみとさせていただきます。

● 施設見学 ※一般見学可

・総合博物館 9:30~16:30(入館は16:00まで)
・附属図書館 10:00~16:00
・尊攘堂 10:00~16:00

当日
入館無料

お申込は、インターネット・下記FAXで受け付けております。 <http://hp.alumni.kyoto-u.ac.jp/>



第11回 京都大学ホームカミングデイ ファックス申込書

申込〆切:2016(平成28)年 10月3日(月)

参加を希望される催しに ☒ を付けてください。

※締切後、抽選結果通知をご住所あてに郵送いたします。(10月下旬を予定)

☐ 講演会 ※事前申込・抽選制(一般申込可)
《定員:500名》

☐ 京料理を味わう ※事前申込・抽選制
会費:3,700円《定員:200名》

※当選された方は、抽選結果通知に
同封の払込取扱票により、参加費を
期日までにお振込みください。

フリガナ		フリガナ	
氏名		同伴者名	
住所	※抽選結果通知郵送のため必ずご住所をご記入ください。 〒		
電話番号		FAX番号	
卒業生	学部名: (年卒業)	修了生	研究科等名: (年修了)
元教職員	部局名: (年退職)	教職員	部局名:
在学生	所属学部・研究科等名:	備考	

FAX 075-753-2286

※お預かりした個人情報は、抽選結果通知以外の目的で使用する一切ございません。

京都大学同窓会事務局
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
TEL:075-753-2029
Email: alumni@www.adm.kyoto-u.ac.jp